

健康 ぷらざ

オーラルフレイルを予防して、 「食べる」「話す」を楽しもう

指導：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医歯学系専攻老化制御学講座
摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授

戸原 玄

企画：
日本医師会

No. 546

オーラルフレイルとは

口の健康への意識が低下し、嚙んだり飲んだりする機能が衰えて、滑舌が悪くなったり、食べこぼしが増えてくる状態を、オーラルフレイルといいます。ものを食べるには、嚙む力と飲み込む力が必要ですが、加齢によって筋力が低下し、歯の本数が減少すると、この2つの力が弱くなり、オーラルフレイルに陥ります。オーラルフレイルになって口腔機能が低下すると、心身機能や社会的な側面にも影響を及ぼします。

早期発見が大切

オーラルフレイルは、健康と機能障害の中間の状態です。適切に対応することにより健康に近づくことができるので、早く気づいて対処することが大切です。自分でオーラルフレイルの知識を持ち、日常生活の小さな変化(表1)に気づけるよう心がけましょう。周りの方が気づいてあげることも大切です。

表1 日常生活のチェックポイント
(1年前と現在を比べるとわかりやすい)

嚙めない食べものが増えた。

1回の食事で食べる量が減った。

体重が減った。

外出する機会が減った。

人と会うのが面倒になった。

予防と対策

人が生きるために大切な「食べる」「話す」といった行為が楽しめる時間を、できるだけ長く保つためには、歯周病やむし歯に適切な処置を受けることはもちろんですが、定期的に歯や口の健康状態をかかりつけの歯科医師に診てもらうことが重要です。地域で開催される口腔機能向上のためのセミナーなどを活用するのも効果的です。まずは筋力を衰えさせない生活を送りましょう(表2)。

早めの予防・対策によりオーラルフレイルの進行を遅らせることができ、健康な心身を作ることにも役立ちます。



表2 筋力低下の予防と対策

- 痩せ過ぎない。
- 栄養バランスの良い食事をする。
- たんぱく質や、たんぱく質の吸収を促すビタミン類を、意識して摂取する。
- できるだけ外出し、積極的に体を動かす。屋内の運動でもよい。
- 家では、寝るより座る、座るより立って歩くよう心がける。
- 口まわりの筋肉に力を入れて、歌を歌う。
高い声域の曲、テンポの早い曲がより効果的。

日本医師会ホームページでは、健康ぷらざのバックナンバーがご覧いただけます。



日医
バーコード読み取り機能付き
携帯電話もしくはスマートフォン
でご利用になれます。